

令和4年度 経営計画書 会計課 会計管理者 松田 重彦

<p>1 部の 使命</p>	<p>市の会計事務を統括する組織として、現金、有価証券の出納・保管、現金及び財産の記録管理、決算の調製を担うとともに、各部局の正確かつ迅速な会計事務の遂行を支援することにより、適正で効率的な会計事務の実現を図り、市民の期待に応えます。</p> <p>【令和3年度評価】 令和3年4月より新財務会計システムが稼働したが、マイナンバーの登録・管理をはじめ予定通りシステムの移行ができた。基金の運用については、30億円の債券を購入し、低金利状況が継続する中、利子収入の確保に努めた。</p>
<p>2 それ まで の経 営評 価</p>	<p>【令和3年度実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○支払遅延件数の減少/件数は把握していないが、調書に「遅延理由書」添付させるとともに、指導した。 ○不適格調書数の減少/（例月検査指摘件数）R2年度95件⇒R3年度84件 ○基金の平均利回りの向上/R2年度0.086%⇒R3年度0.078% ○会計事務研修会の実施/令和3年11月8日、11月9日実施 ○指定及び収納代理金融機関検査の実施/令和4年3月15日実施 <p>【評価】 「支払遅延件数の減少」については、件数は把握できていないが、確実に前年度よりも減少してきていると考えている。「基金の平均利回り」は前年度を0.008%下回った。その他については予定通り実施した。</p> <p>【原因】 「基金の平均利回り」が前年度を下回ったのは、令和3年度よりペイオフ対策の一環として、各金融機関への定期預金額を借入額以下と変更したため、大幅に定期預金から普通預金に移行したことが主な原因である。</p> <p>【対応】 令和4年度以降も、金融機関への定期預金額は減少していくと見込まれるため、今後は基金の一括運用のメリットを生かし、計画的かつ積極的に債券の購入を行っていく。</p>
<p>3 外部 環境</p>	<p>◎機会 【経済】 コンビニ納付、スマホ決済等納付方法の多様化</p> <p>▼脅威 【経済】 ①日銀のゼロ金利政策に伴う債券・定期預金利率の低下 ②振込手数料の有料化</p>

4 内部 環境	<p>○強み</p> <p>【使命】使命が明確になり組織力の発揮が可能</p> <p>【協働】財政担当部局との連携による計画的な資金運用を行う</p> <p>▽弱み</p> <p>【人材】少人数の職員体制のため人事の刷新が図りにくい。</p>
5 重要 経営 課題	<ul style="list-style-type: none"> ●市民に信頼される、適正かつ効率的な会計事務の執行 ●歳計現金及び基金に属する現金等の確実かつ効率的な管理・運用 ●日常の調書審査及び会計事務研修を通じての職員の資質向上
6 部の 経営 体制	<p>【所管課】会計課</p> <p>【人員】部長職1名、課長職1名、主幹1名、会計年度1名</p> <p>【歳入予算】基金利子収入（13,195千円）、市預金利子収入（250千円）</p> <p>【歳出予算】会計管理費（3,576千円）、基金利子積立（13,195千円）</p>
7 部の 経営 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・支払遅延件数の減少 ・不適格調書数の減少 ・基金の効率的運用による平均運用利回りの向上 ・会計事務研修会の実施 ・指定及び収納代理金融機関検査の実施
8 部の 経営 方針	<p>【市民】窓口における丁寧な市民対応と確実な公金の収受</p> <p>【経営】基金の一括運用による効率的運用の強化</p> <p>【協働】各部局との連携による適正な会計事務の遂行</p> <p>【人材】各種研修等を通じて職員の会計事務処理能力の向上を図る</p> <p>【改善】業務改善による効率的な会計事務の遂行</p>
9 部の 重要 政策 の取 組内 容	<p>【拡大】基金の一括運用のメリット生かし、債券運用の計画的運用を図る。</p> <p>目標/R4年度 10億円の債券購入</p>